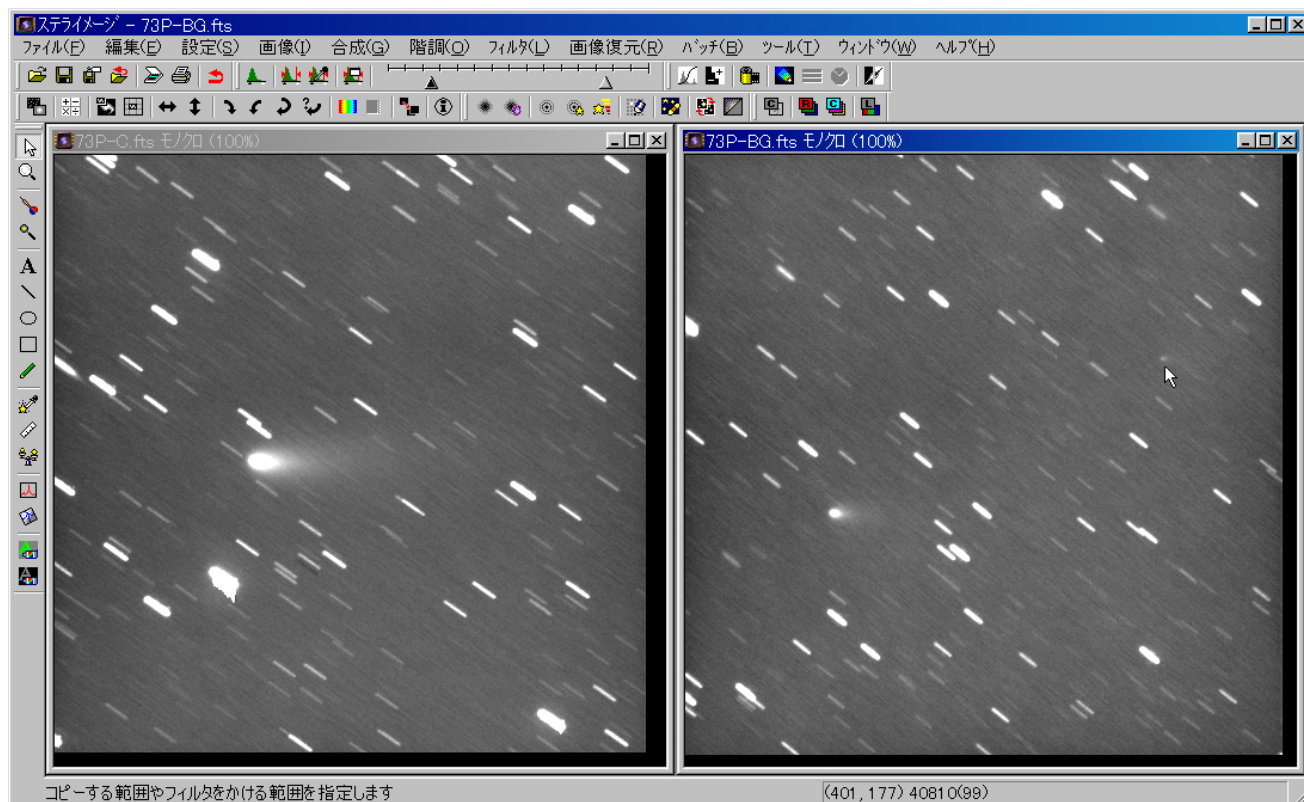


■73P の近況と核の位置について

□73P-20060313-image.jpg



2006 Mar. 13 に口径 25cm 反射+冷却 CCD で撮像した 3 つの核。

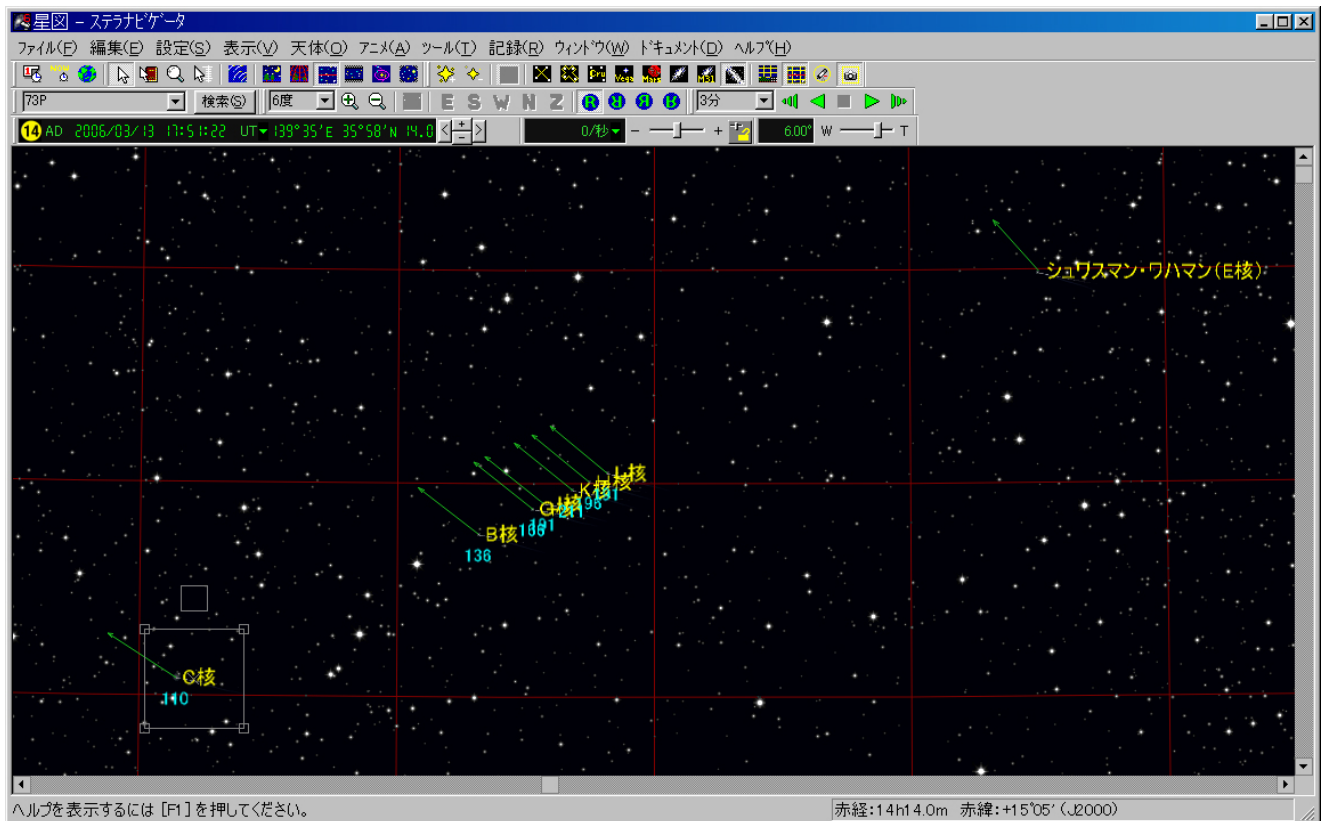
※写野 28 分角

(左)C 核: 2006 Mar. 13. 744 UT, 3 分露出×24 枚

(右)B 核・G 核: 2006 Mar. 13. 686 UT, 4 分露出×16 枚 ※マウスカーソルが G 核

・ CCD 全光度は、C 核:11.3 等 B 核:13.4 等 G 核:16.3 等。

□73P-20060313-chart. jpg



2006 Mar. 13 における各核の位置を示した星図。

※四角の枠：28 分角の写野

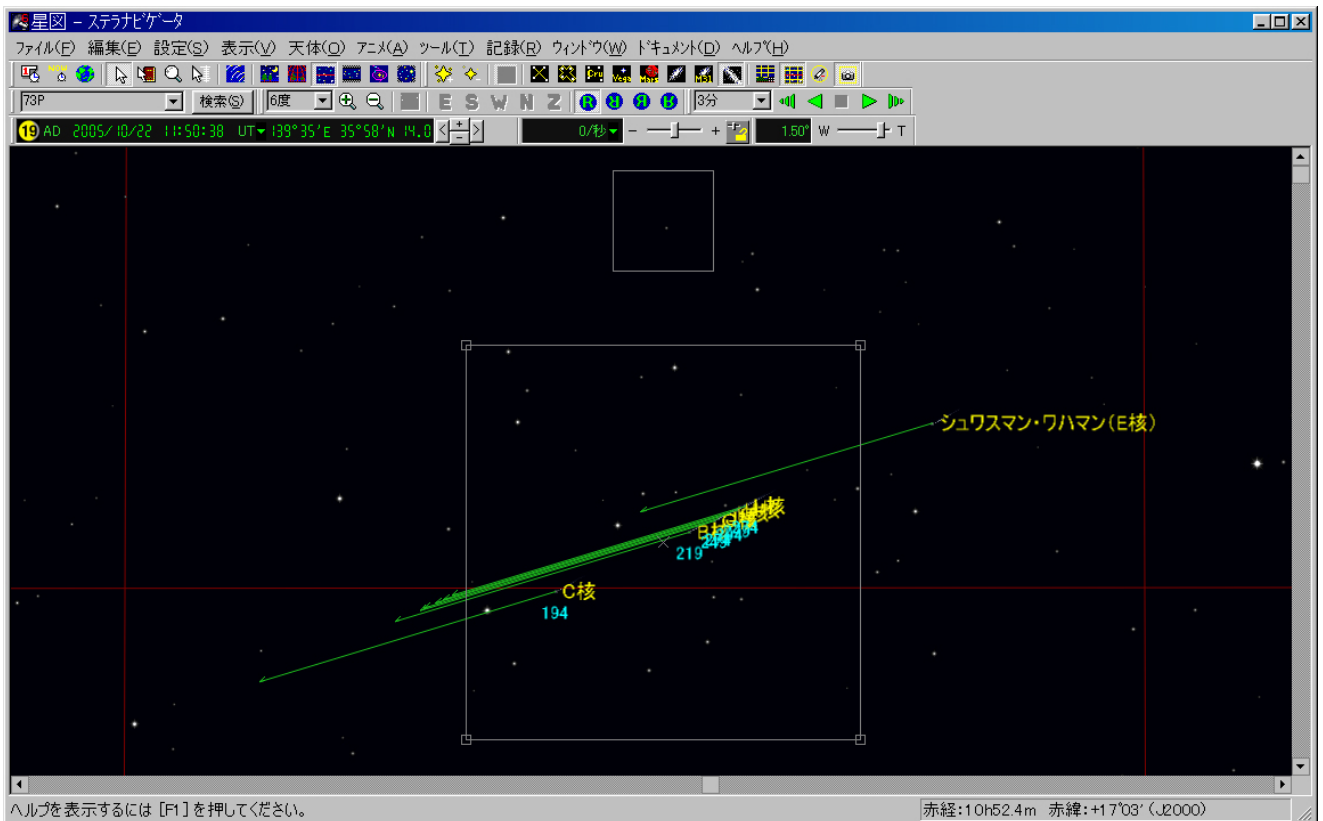
※青文字：光度

※緑線：日々運動量

※右下の座標：写野中央付近の赤経・赤緯

- ・ 右上の (E 核) は、1995 年の B 核と 2001 年の E 核の観測から求めた予報位置。
- ・ 新たに発見された H, J, K, L 核は B 核から分離したようである。
- ・ L 核から E 核の予報位置までの間に新たな分裂核が見つかる可能性あり。

□73P-20051022-chart. jpg



C核検出時の各核の位置を示した星図。

※枠や色などは上記と同様

- ・狭い範囲に分裂核が見られ、大口径望遠鏡で早期に検出できるチャンスがあった。

■位置観測について

- ・分裂核の素性を明らかにするため、継続的な観測が必須である。暗くなって観測可能な限界まで追跡することが望まれる。
- ・測定に用いる画素を増やすと、尾の明るさで誤差が大きくなる。できるだけ限られたピクセルから重心位置を求めること。
- ・同一天文台から一晩に大量の観測を報告すると、系統的な誤差で計算された軌道に影響が生じることがある。観測が多い時期は、やや多め(数個程度)の位置報告で、バランスを保つこと。

以上